Socio express エクスプレス

社会科教育法　中学校社会科における連続型テキストと非連続型テキストの関連／岸　学　2

授業実践レポート　日本の諸地域学習における「生活・文化を中心とした考察」の授業実践／久保田亘　6

事象を関連づけ，捉える時代の転換／松田庄一郎　8

「対立と合意，効率と公正」を中軸に据えた授業づくり／伊藤貴史　10

教育出版

中学校社会科における連続型テキストと非連続型テキストの関連

岸　学

●きし　まなぶ／東京学芸大学教授

●1．はじめに

私の専門は教育心理学・認知心理学で，その中でも，文章の理解や表現(産出)の仕組みとその指導法を研究しています。特に，最近は非連続型テキストの理解の様子について，いろいろな視点から検討を重ねています。

非連続型テキストとは，図・表・グラフ・写真・絵など，紙面や画面上に文章の形で書かれたもの以外を一括して呼ぶときの用語です。それに対し，文章は連続型テキストとも呼ばれています。社会科の教科書の多くは，中央部分の文章とその周辺にある非連続型テキストとの両方の部分によって構成され，それぞれが重要な情報を伝えています(図１)。なお，研究では，図１のように文章と非連続型テキストからなるものを文書(ドキュメント)と呼んでいます。

図１　社会科教科書のレイアウト例

2000年にOECDが実施したPISAの読解力問題の中に，非連続型テキストの読み取りと活用が出題されました。それ以来，小学校・中学校の多くの教科で，このようなタイプの文書(文章＋非連続型テキスト)の読解と表現が重要な技能として位置づけられてきています。とりわけ社会科では，PISAが取り上げるよりはるか以前から，図表や資料を読み取り，文章内容と関連づけることが必須の指導内容でしたので，指導方法についてのノウハウが多数蓄積されてきていると考えられます。

●2．文書の読み方はよくわかっていない

文章と非連続型テキストからなる文書を読み，内容を理解するには，それぞれから得られる情報を補完し合い，両者をしだいに統合していくという，新しいタイプの読解力が必要になると考えられます。しかしながら，教育心理学の分野では，この非連続型テキストを我々はどのように理解していくのか，また，理解をするためにはどのような技能が基盤にあるのか，などについてあまり研究されてきませんでした。特に，児童や生徒がどのように理解するかについては，基礎的なことすらわかっていないのが実情です。非連続型テキストを含む文書の理解指導をするにあたって，基礎データの蓄積は急務といえましょう。

そこで私達の研究グループでは，眼球運動

の様子を測定して，理解の様子を捉えてみようとしました。

●3．人によって読み方が違う

もう一度図１を見てください。その内容を理解しようとしたとき，みなさんは，文章と非連続型テキストのどちらの方をよく見るでしょうか。そして，ほかの人たちはどのように見ているのでしょうか。

実は，大学生を対象に実験をして眼球運動の様子を見てみますと，文章を中心に読む人と非連続型テキスト（図表や写真やイラスト）を中心に見る人とがほぼ半数ずついました。図２には両者の視線の跡を示しました。左上は真ん中の文章部分を，右下は周囲の非連続型テキスト部分を見ていることがわかります。

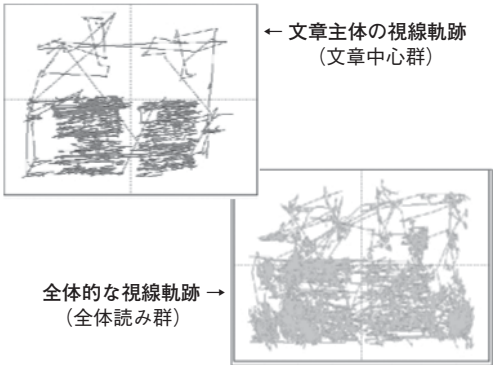


図２　二つのタイプの視線軌跡

世の中の半数の人は自分とは違う見方をしていると思ってよいでしょう。「でも，どちらから見ても理解に影響がないのなら，どうでもいいのではないか」とも思うところですが，実はそうではないのです。

これまでの心理学の研究から，文書の文章部分と非連続型テキスト部分とをうまく統合しながら内容を理解する，あるいはお互いに足りない情報を補完しながら読み進める，という活動は，教えなくても誰もが同じように実行できるわけではないようです。むしろ，どこかできちんとそのやり方を教える必要があると考えられます。

図２の視線軌跡の例で，文章を多く見ていた人（文章中心群）と，非連続型テキスト部分を満遍なく見ていた人（全体読み群）との間で，読んだあとの内容理解度をテストしますと，興味深いことに，全体読み群の方が理解得点は高かったのです。文章を読んでいる時間は少ない方がよく理解していたという結果は，文書を読むときに，文章と非連続型テキストの情報を相互に補完していく必要がある，という深谷ら（2004）の指摘を裏づけるものです。

●4．読み方を指示してみると

視線軌跡を分析すると，教科書が提示された直後，文章中心群は文章に，全体読み群は非連続型テキストに視線を向ける特徴があります。そこで，文章中心群の人には「先に図表を見るように」（図表先行型指示），全体読み群の人には「先に文章を読むように」（文章先行型指示）と伝えました。

すると，大変興味深い結果が得られました。指示によって理解度テスト得点の順位が上昇した人数を比較しますと，図表先行型指示群の方が，文章先行型指示群よりも多かったのです。「図表を先に見るように」という指示のみで，理解のしかたや結果に効果がみられたのです。

この結果が意味するのは，文章と図表とをどの順序でどのように見るのかが理解に影響

することや，ほかの読み方をしてみることによって違った理解の可能性があることでしょう。指導の中で，「文書（教科書）をどのように見るのか」の指示や練習が必要であると考えられます。ただし，図表先行型指示の結果，順位が下降した人がいたのもまた事実です。

●5．記憶力が影響する

では，「文章中心群」と「全体読み群」は何で決まってくるのでしょうか。指導の成果でしょうか。しかし，対象となった大学生は「学校で，どちらを先に見るかを指示された記憶はない」と言っています。

我々が注目したのは，作業記憶と呼ばれるものの容量です。作業記憶容量とは，理解や問題解決をするときに頭の中で同時に働いている情報の量のことです。これが少ないと，複雑な作業や課題を行うのが難しくなってしまいます。

その結果，作業記憶容量が多い人は，読み始めから図表を注視し，最後まで注視の時間が長かったのです。ただし，この結果の解釈は慎重でなければなりません。多くの研究で，作業記憶容量の少ない人は，作業記憶を非常に効率的に使い，少なさをほかの方法で補償することもできると言われているからです。つまり，単純に容量の多少が理解度の高低に結びつくわけではないのです。

●6．レイアウトを変えたら？

社会科の教科書は，だいたいレイアウトが決まっています。しかし，近年では教科書の電子化が進み，場合によっては文章と非連続型テキストの位置を自由に変えることができるようになるかもしれません。

そこで，非現実的な教科書になりますが，歴史教科書の文章と図表などの非連続型テキストについて，図表と文章とを交互に配置する「図表主体教材」と，左頁は文章で右頁は図表という「文章主体教材」の２種類を作ってみました。そして，大学生に読んでもらい，眼球運動を測定しました。

その結果，文章中心群の人でも，図表主体教材のレイアウトにすると図表を長く注視するようになること，文章主体教材では，全体読み群の人でも，図表をあまり見なくなることがわかり，レイアウトが大きく関与することが明らかになりました。図表の注視を促すようなレイアウトがありそうだと考えられます。

●7．文章と非連続型テキストとの関係は？

ところで，いつも教科書で指導している先生方からは，次のような疑問が出されると思います。「文章と非連続型テキストとの間には，いろいろな関係がある。その違いを無視してよいのか」その通りです。深谷ら（2000）によれば，文書内の文章部分と非連続型テキスト（図表）の間には，図表と文章が異なる情報を表す「相互補完の関係」と，図表と文章とが同じ情報を表した「重複」の関係があるとしています。

そこで，同じ内容の文章で，図表との関係性が異なる二つの文書（補完型と重複型）を作成し，両者の読解のプロセスを眼球運動測定によって明らかにしようとしました。また，作業記憶容量が，これらにどのような影響をするのかも検討しました。

結果は図３の通りでした。

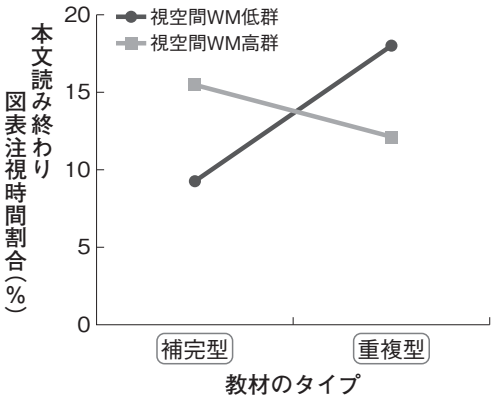


図３　図表を注視する時間割合に影響する要因

図３は，補完型と重複型の文書の間で，作業記憶容量（WM）の高低によって図表を注視する時間の割合に違いがあるかをまとめたものです。時間割合が多いということは，図表から多くの情報を得ようとしているか，あるいは図表を理解するために時間を要しているかのいずれかです。その結果，WMが低い人は補完型よりも重複型の文書で，図表を長く見ていますが，WMが高い人は逆の傾向がみられました。このことは，作業記憶容量は，図表と文章とを統合して理解するうえで，大きな影響があることを示しています。

●8．児童・生徒ではどうなるのか？

ここまでの話は，すべて大学生が対象でしたが，研究の関心の中心はあくまでも児童・生徒です。非連続型テキストの読解方略がどのように発達し，どのように学習・獲得されてきたのかはわかっていません。そもそも，これまで大学生でわかっていることは学習性があるのかどうかもわかりません。

そこで，小学校３年生を対象に，児童が社会科教科書の読み取りをどのようにするか調べました。児童の眼球運動を測定するというのは，学校では実施の許可がおりませんので（測定装置はノートパソコン１台分ですが），共同研究者の子どもにお願いしました。

その結果，児童は，文章部分よりも，まずはキャラクターやイラストなどの図に注目し，さらに，紙面の中の大きな図（約４分の１以上）に注目していることが明らかになりました。教科書の内容を理解するように教示していても，そして，単元が変わっても，イラストと大きな図を優先的に見る傾向は変わりませんでした。

●9．まとめ

以上のように，文章と非連続型テキストをどのように読み進めるかには複雑な側面があり，まだまだわからないことだらけです。さらに，児童・生徒については，ほとんど研究されていません。

同じ教科書を見ていても，「皆が同じように見ているわけではない」という点に留意していただければ，我々の研究に意味があったと思っています。

日本の諸地域学習における「生活・文化を中心とした考察」の授業実践 ～東北地方を「祈り」と「恵み」の視点から捉える

久保田　亘

●くぼた　わたる／茨城県古河市立古河第一中学校教諭

●1．はじめに

東北地方は，豊かな自然を背景に農業が発達し，日本の食料生産を支える地域である。また，そうした農村社会との結びつきから，祭りや年中行事，伝統工芸品などの多彩な文化が生まれ，多くの観光客が訪れる地でもある。本稿では，こうした東北地方の地域的特色について，生活・文化を中核とした考察として，「祈り」と「恵み」の視点から捉える授業実践を紹介したい。

●2．単元の位置づけ

学習指導要領には，「生活・文化を中核とした考察」について，次のような記述がある。地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として，それを自然環境や歴史的背景，他地域との交流などと関連付け，近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考える。

日本の諸地域学習のなかでも後半で扱う東北地方の学習は，自然環境との関わりや地域間の結びつきといった事象と関連させて考察するなど，動態地誌的な学習が展開しやすい。また，本実践では，単元を貫く学習課題を，「東北地方の生活・文化にはどのような特色があり，人々はそれをどう受け止めているのだろうか」とした。

●3．授業の流れ

【第１次】「東北地方について知ろう」

東北地方について，「家族旅行をしたことがある」「テレビ番組で見た」など，実際に訪れた場所や知っていることを自由に発言させ，地図帳で確認する。地勢図を示して，地名や自然環境の特色を理解させる。特に，秋田市と宮古市の雨温図（教科書p.222）を比較させ，月別平均気温の違いから親潮ややませの影響についてもふれる。

【第２次】「東北の祭りに込めた『祈り』」

旅行会社が企画する「東北四大祭り」のパンフレットを提示し，どの祭りを体験したいかを自由に話し合わせ，日帰りの観光プランを班で考えさせる。実際のツアーの見どころをおさえながら，気づいたことを発表させる。それぞれの祭りが同時期に行われており，各地域が協力して観光客誘致に取り組んでいることを理解させる。

そのなかから，秋田竿灯祭りに注目させる。1993年の稲の冷害被害（教科書p.231）についての資料を読み取らせ，秋田では夏に「宝風」と呼ばれる風が吹くことを紹介する。やませが奥羽山脈を通り抜けると，高温で乾燥した風となる。この恵みの風や，品種改良などの工夫によって，日本有数の稲作地帯となった歴史を説明する。実った稲穂に似せたとされる竿灯を再度示して，東北地方の伝統的な祭

りや名称の背景には，農村社会の「祈り」があることをつかませる。

【第３次】「『恵み』をいかしたご当地グルメ」

いわて銀河プラザ(銀座)や宮城ふるさとプラザ(池袋)など，東京都内には東北６県すべてのアンテナショップが出店している。そこには地方の特産品や祭りなどの行事を情報発信し，観光客の誘致につなげる意図がある。近年では，「B級グルメ」の登場によって，どの自治体でも「グルメマップ」を作成するなどPRが盛んである。

この「ご当地グルメ」を例に，東北地方の食文化についてふれる。南北でその食文化が大きく異なる岩手県の場合，県北部はやませの影響で小麦やそばなどの「雑穀文化」であるのに対し，南部は米を中心とした「餅文化」とされる。餅を使った料理を思いつくだけ書かせて発表させたのち，一関市のHPを見せる。年中行事や冠婚葬祭のもてなし料理として餅が食され，伝統料理として観光資源にもなっていることを理解させる。

所与の自然環境のもとで人々が工夫をこらし，地域資源という「恵み」をいかした食文化が発展してきたことをつかませたい。

【第４次】「東北が，変わる」

山形新聞の紙面を一部隠して示し，掲載される表が何を示したものか予想させる。正解は新幹線や高速バスなどの残席情報で，誰がこの情報を必要としているか考えさせる。東北新幹線の延伸やミニ新幹線の発達，高速道路網の拡大により他地域との結びつきが強まり，日帰り客や工場進出が増え，地域が変容したことを扱う。

また，農業について，筆者が台湾を訪れた際にスーパーで売られていた青森産のリンゴの話をする。他の果物に比べると高いが，一人当たり消費量が日本の約1.7倍もある台湾では，WTO加盟をきっかけに青森からの輸入量が年々増え，最大の輸入果実となっている。福島第一原子力発電所の事故や市場価格の高騰などにより一時的に輸出量は減っているが，地域産業の発展を考えるうえで，国際化が進む事例として扱いたい。

【第５次】「東北地方の魅力をまとめよう」

生活・文化を中核としたこれまでの学習について，「祈り」と「恵み」の視点から論述させる。

また，日本の他の地域でも同じような指摘ができるか(あるいはできないか)についても考察させたい。

●4．おわりに

地理で扱う内容は，そこに生きる人々がつくり出す地域の魅力，ひいては日本のよさを感じられるものでありたいと考えている。

そのための手段として，夏休みや冬休みの選択課題の一つに，『旅行先から手紙を送ろう』を設けている。筆者のもとに届く各地からの葉書には，「風景印」が捺されている。風景印はいわゆる消印の一種で，その地を代表する名所や名産品の意匠が凝らされ，郵便局で頼めば捺してもらえる。

また，東北地方の学習のまとめとして，『風景印をデザインしよう』などの活動も考えられる。日本の諸地域学習の実践の参考になれば幸いである。

事象を関連づけ，捉える時代の転換
～「近代化の必要」の導き出しを通して

松田　庄一郎

●まつだ　しょういちろう／沖縄県沖縄市立美東中学校教諭

●1．はじめに

平成24年度から実施された学習指導要領では，思考・判断・表現等の活動を通して，時代の特色や時代の転換について考えたり，表現したりする学習の充実を図り，「歴史について考察する力や説明する力」を育てることが求められている。

本稿では，時代の転換を「変化」の視点から捉えさせることを目指した実践について紹介する。

●2．単元について

(1)　単元

本実践では，「第５章　近代の幕開け」を「第６章　１　明治維新と立憲国家への歩み」へのつながりを見据えながら展開した。

(2)　単元の目標

○　欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。
○　新政府による改革の特色を考えさせ，明治維新によって近代国家の基礎が整えられ，人々の生活が大きく変化したことを理解させる。

本単元は，欧米諸国によるアジアへの進出などの複雑な国際情勢のなかで，我が国が開国し，近代国家の仕組みを整え，アジア諸国や欧米諸国と密接な関わりをもってきたことについて，近代の特色を世界の動きとの関連に着目して進める学習である。単元の目標を踏まえ，本時は，「欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと」と関連づけて，「新政府による富国強兵・殖産興業政策，文明開化」の必要を導き出す学習過程を通して，この時代の日本における「近代化の必要」について理解させる学習にしたいと考える。

●3．授業設計

(1)　単元計画（全８時間）

時	学習項目
3	欧米諸国の動きと日本①②
2	欧米諸国の動きと日本③
	欧米諸国の動きと日本③（本時）
3	欧米諸国の動きによる日本の変化①②

(2)　言語活動の手法

本実践では，根拠に基づく思考・判断（答えの導き出し），思考・判断した内容の文章化，さらに発表活動を組み合わせた言語活動（トゥールミンモデルの活用）を展開する。

(3)　本時の指導

①　学習項目　欧米諸国の動きと日本③

②　本時の目標

欧米諸国の動きと関連づけ，日本の変化について考え，理解する。

③　授業仮説

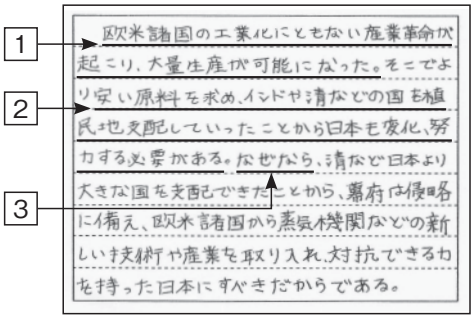
欧米諸国の動きと日本（近代社会の成立など）で得た知識を活用し，諸外国と日本の状況から日本が変化，努力すべきことについて考える場面において，「トゥールミンモデル」の手法を取り入れた言語活動を行うことで，

根拠に基づいた考え(日本における「近代化の必要」)を導き出すことができるであろう。

④　本時の展開(p.9右上に一部抜粋を掲載)

時	学習活動	
	中核発問 欧米諸国の動きと関連づけ，日本が変化，努力すべきことについて考え，答えなさい。	
展開40分	1　学習課題 (1)　個人 既習の江戸幕府に関する知識や欧米諸国の動き，また本時の習得知識(外国船打払令の見直し)を関連づけ，この時代に日本が変化，努力すべきことについて，根拠に基づき考える。 (2)　グループ 根拠に基づいた，個の考えをグループ内で発表し，話し合い，グループの考えをまとめる。 2　学習内容深化 グループの考えを発表し，ほかに追加すべき内容がないか，考える。	予想される生徒の記述 ① 事実：イギリスの工業化や産業革命，欧米諸国のアジア進出(植民地支配)などの動きがあった。② 結論：日本は鎖国をやめ変化すべきだ。③ 理由：なぜなら植民地になるのを避けるために開国し，外国から新しい技術などを取り入れ，強い国にすべき など ▼ 深化発問①(口頭) 発表内容に追加すべきことはないか。 深化発問②(口頭) 発表内容をまとめると日本の目指す姿と言える。本時のまとめとして，日本は何を急ぐべきか。

●4．中核発問に見る記述の実際



実際の記述

記述の下線１は，中核発問の「欧米諸国の動き」を捉えたもので，既習の知識(産業革命など)を根拠にあげ，活用したことがわかる。社会科学習における思考の過程において，用語を暗記しただけの知識では，活用は見込めない。活用するためには，事象の内容や歴史的意味などをほかの知識と有機的に結びつけて捉えることが必要と考えられる。下線２では，より細かい内容(機械工業の発展と欧米諸国の近代化など)を含む知識と関連づけて判断(結論づけ)したことがわかる。知識の有機的な結びつきを経て，思考が深まったと考えられる。下線３「なぜなら」以降の記述では，判断理由(結論に対する裏づけ)として，自身の考えが述べられている。学習してきた江戸幕府と，欧米諸国の動きを根拠に思考を深め，次の日本の姿(日本における「近代化の必要」)を導き出しているといえる。

●5．おわりに

５月に実施したアンケートでは，生徒は根拠，理由(裏づけ)をもとに説明することなどを「苦手(53%)」としており，記述に対しても苦手意識が見られた。本時終了後の評価では，根拠に基づき，自分の考えを述べることができた生徒Ａ評価(76%)，Ｂ評価(15%)，Ｃ評価(９%)であった。「トゥールミンモデル」のように記述の仕方を統一し，継続的に指導を展開することが，事実の読み取りや，根拠に基づいて結論を導くなど，「思考力・判断力・表現力」を高めるのに有効だったといえる。今後も継続した学習指導を通して，生徒の「力」を高めていきたい。

参考文献

足立幸男『議論の論理』木鐸社，1984 年

「対立と合意，効率と公正」を中軸に据えた授業づくり
～トレード・オフ(二律背反)の事象に対する合理的意思決定と共感的意思決定

伊藤　貴史

●いとう　たかふみ／上越教育大学附属中学校教諭

●1．はじめに

TPPや社会保障，税制や格差など，現代社会のさまざまな事象を構造化すると，トレード・オフ(二律背反)の関係にあるものが多い。また，その構造をさらに読み解いていくと，「効率と公正」の関係が見えてくる。

当校では，2010年から2012年にかけて，文部科学省の研究開発学校の指定を受け，教育課程の再編に取り組んだ。再編の一つとして，既存の社会科を母体とした市民科を設定し，実践を行った。市民科では，生徒が将来の場面において，よりよい社会の形成者としての自覚をもち，未来を予測した価値判断に基づいて意思決定をし，社会参画などを通して具現化できるようになることが大切だと考えた。そこで，各学年の学びの構想については，１，２年生で，社会認識(事実認識と価値認識)を深めることを重視した単元を，３年生で，合理的・共感的に価値判断することを重視した単元を積極的に設定した。

●2．教材と学習過程の工夫

市民科では，単元開発にあたり，教材と学習過程に着目し，具体的な手立てを工夫した。

教材の工夫では，生徒が社会的事象に対する興味・関心を高めたり，切実感をもったりできるよう，実生活や実社会，未来との関わりが深い事物や事象を積極的に取り上げた。

学習過程の工夫では，生徒が探究を通して，事実認識や価値認識を深め，意思決定力を高めることができるよう，単元のなかで，以下のような工夫を行った。

①ガイダンスや振り返りの場を設定する。
②ウェブページや書籍資料を活用した情報収集の場を設定する。
③体験的な活動や調査活動を位置づける。
④専門家を招いた講演会や意見交換，外部機関と連携した社会参画の場を設定する。
⑤グループでの話し合いや意見交換の場を設定する。

とりわけ，⑤については，日常の授業のなかでも，無理のない程度で積極的に設定した。

●3．実践①「桜城地方選挙－よりよい社会の実現に向けたマニフェストの作成－」

この単元では，生徒が，さまざまな立場に立って，上越市が抱える問題について実態を調査するとともに，問題の解決を図るための政策を考案した。また，同様の問題を取り上げた生徒どうしで政策討論を行い，政策上，合意に達した生徒どうしで模擬政党を結成し，マニフェストを作成する学習を行った。単元の終末では，作成したマニフェストを，家族や地域の方などに提示し，各模擬政党に投票をしてもらい，模擬比例代表選挙を実施した。

単元中の政策討論では，効率を重視した合理的な判断と公正を重視した共感的な判断とが対立する場面や，対立から合意形成を図っ

ていく場面が随所に見られた。例えば，過疎について取り上げた生徒どうしの政策討論では，以下のような対立が見られた。

A男：昔からの中心市街地の再開発よりも，実際にどんどん人の往来が多くなっている主要道路沿線の新興商用地の開発に力を入れた方が，人口増加の近道になるはずだ。

B子：自動車をもっていない高齢者にとって不便な街になってしまうのでは，よい街づくりとはいえないし，昔からの商店街を守っていくことは大切なことだと思う。

これに対し，C子が，中心市街地と郊外の新興商用地の両立を可能にする政策として，両者を結ぶ交通網の整備について提案した。最終的に，このグループは，両者を両立させた過疎対策で合意に達し，模擬政党を結成した。その後，町おこしで活躍されている地元NPOの職員の方と自分たちの政策について意見交換を行い，マニフェストを完成させた。

●4．実践②「その権利は保障されるの？ ー自己決定権について考えようー」

この単元では，生徒が，自己決定権に関わるさまざまな問題についてさまざまな情報を収集し，それをもとに，自らの価値判断をもって公共の福祉のあり方について意思決定し，レポートにまとめる学習を行った。この単元においても，効率と公正の視点で対立する場面や，対立から合意形成を図っていく場面が見られた。例えば，積極的安楽死に対する自己決定権は保障されるべきかという問題に対する意見交換において，医師を父親にもち，自分も医師を目指しているA子は，医師の使命について自分の考えを述べ，保障されるべきではないと主張した。また，B男は，認めることで生じる可能性のある犯罪について言及し，保障されるべきではないと主張した。一方，C男は，苦しみから解放されたいという思いや，歴史のなかで行われてきた苦しみから解放するための行為などを理由に，保障されるべきであると主張した。また，D子は，経済的な観点から，一定の条件を設定したうえで保障されるべきであるという考えを発表した。最後に，家族の臨終に立ち会ったことのあるE子から，どんな状態であれ，別れはとても辛かったこと，いつまでも生きていてほしいと思ったことが語られた。

●5．おわりに

市民科の実践を通して，生徒のワークシートや振り返りの記述から以下のような意識の変容が見られた。

①民主主義においては，最終的な決定方法に多数決の原則がとられているが，十分な話し合いが大切である。

②トレード・オフの構造については，全てを成り立たせることは困難であるため，第三の提案を考えることが有効である。

③場合によっては，自分の主張を貫き通したり，相手の主張を認めたりする勇気が大切である。

④合意形成は難しいことであり，合意を図ろうとする意志と努力が必要である。

現代社会には多くの問題が山積している。将来の場面において，さまざまな問題を主体的に解決していこうとする市民的資質を育むうえで，今後も，このような実践に積極的に取り組んでいきたいと考える。

第11回 まもなく締め切り!!

地球となかよしメッセージ

作品募集(2013年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり，考えたりしたことを，
写真（またはイラスト）にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に参加賞がもらえるよ!

第10回入選作品

田んぼパワー

田んぼはね苗を植える場所なのに
カイエビ，ミジンコ，イトミミズ　いろんな生きもの生まれてる
田んぼはね稲を育てる場所なのに
オタマジャクシ，ヤゴ，タニシ　いろんな生きもの育ってる
田んぼはね稲穂を刈り取る場所なのに
オンブバッタ，トンボ，チョウ　いろんな生きもの恋してる
田んぼはね何にもしてない時にでも
アメリカザリガニ，ドジョウ，ヘビ　いろんな生きもの休んでる
田んぼはねお米という命が実る場所だから
サギ，コオイムシ，レンゲソウ　いろんな命がつながって
アメンボ，スズメ，私たち　田んぼパワーで元気いっぱい

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2013年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧下さい。
作品テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや，自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して，友好の輪を広げた体験，異文化交流，国際理解に関すること ③その他，「地球となかよし」という言葉から感じたり，考えたりしたこと

◎主催／教育出版　◎協賛／日本環境教育学会
◎後援／環境省，日本環境協会，全国小中学校環境教育研究会，毎日新聞社，毎日小学生新聞
＊協賛・後援団体は昨年実績で，継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/

教育出版　「地球となかよし」事務局　TEL 03-3238-6862　FAX. 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

【表紙写真】聖堂などの歴史的な建築物も立ち並ぶ，ニューヨーク市マンハッタンの五番街。街角には，屋台(ベンダー)で食べ物を販売したり，レンタル自転車の広告を持って立っていたりする人が見える(上写真)。観光客などでにぎわうタイムズスクエア周辺。多国籍な屋外広告が街を彩る(下写真)。〔2013年　アメリカ合衆国〕

中学社会通信　Socio express　〔2013年　秋号〕　　2013年8月30日　発行

編　集：教育出版株式会社編集局
印　刷：大日本印刷株式会社

発　行：教育出版株式会社　代表者：小林一光
発行所：教育出版株式会社
〒101－0051　東京都千代田区神田神保町2－10　　電話　03－3238－6864(お問い合わせ)
URL　http://www.kyoiku-shuppan.co.jp

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は，科学技術の進展や国際化，情報化，高齢化などによって，今，大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で，人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには，人や自然を大切にしながら，共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは，この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め，社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060－0003 札幌市中央区北3条西3－1－44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL：011－231－3445　FAX：011－231－3509
函館営業所	〒040－0011 函館市本町6－7 函館第一生命ビルディング 3F TEL：0138－51－0886　FAX：0138－31－0198
東北支社	〒980－0014 仙台市青葉区本町1－14－18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022－227－0391　FAX：022－227－0395
中部支社	〒460－0011 名古屋市中区大須4－10－40 カジウラテックスビル 5F TEL：052－262－0821　FAX：052－262－0825
関西支社	〒541－0056 大阪市中央区久太郎町1－6－27 ヨシカワビル 7F TEL：06－6261－9221　FAX：06－6261－9401
中国支社	〒730－0051 広島市中区大手町3－7－2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL：082－249－6033　FAX：082－249－6040
四国支社	〒790－0004 松山市大街道3－6－1 岡崎産業ビル 5F TEL：089－943－7193　FAX：089－943－7134
九州支社	〒812－0007 福岡市博多区東比恵2－11－30 クレセント東福岡 E室 TEL：092－433－5100　FAX：092－433－5140
沖縄営業所	〒901－0155 那覇市金城3－8－9 一粒ビル 3F TEL：098－859－1411　FAX：098－859－1411